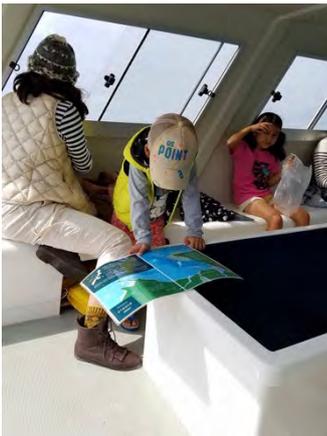


14. 大浦湾グラスボートで青サンゴ見学&学習会

実施主体名	じゅごんの里
開催日時	3月5日10時～3月5日15時
開催場所	沖縄県名護市大浦湾 汀間漁港
実施内容	大浦湾をグラスボートで見学し、青サンゴやその他のサンゴを見学。 自然保護協会の安部真理子さんを招いての大浦湾についての勉強会。
実施状況	※当日の天候（野外イベントのみ）、参加者数、参加者層（親子、シニア、若者、観光客、地元民等）、参加者の様子・反応などを簡単に記述ください。 快晴。20名。親子、若者、研究者、学生、他県からの参加もあり。 非常に満足していました。
実施しての所感	大浦湾のアオサンゴは現在わかっている中で世界最大であり、状態も非常に良い。 しかしまだまだ認知度が低い。来年以降も同イベントに参加したい。

【当日の様子】



15. サンゴの日は博物館へサンサン GOGO

実施主体名	沖縄県立博物館・美術館
開催日時	3月5日9時 ~ 3月5日15時
開催場所	沖縄県立博物館・美術館
実施内容	① サンゴでつくるストラップ ② サンゴでランプシェードをつくろう ③ サンゴ礁にすむ貝で遊ぶ ④ サイエンスカフェサンゴの話（講師：大野良和氏）
実施状況	参加者数：のべ180人 参加者層（親子（多数）、シニア（20）、観光客（5）、花粉症移民（2）） 参加者の様子・反応： 皆楽しそうに参加してくれました。①～③をすべて行う熱心な親子もいました。 ④のサイエンスカフェでは、参加者自らサンゴ礁の保全に行動を起こそうという前向きな意見が聞かれました。
実施しての所感	このようなイベントは、サンゴに対する意識付けになる。お土産もあるので家に帰ってからも思い出さだろう。
メディアへの掲載	沖縄タイムス：3月6日 琉球放送：「南の島のミスワリン」放送未定

【当日の様子】



1. ストラップ



2. ランプシェード



3. 貝で遊ぶ



4. サイエンスカフェ

16. しらほサンゴ村クイズラリー

実施主体名	WWF サンゴ礁保護研究センター
開催日時	2月 25日 9時 ~ 3月 12日 17時
開催場所	WWF サンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」
実施内容	館内3か所に選択式のクイズを設置し、全問正解した来館者にWWFのオリジナルグッズをプレゼントしました。
実施状況	参加者は89名でした。子どもから年配の方まで、あらゆる年齢層の方が参加してくださいました。ほとんどが観光客でした。 来館者の反応はとて良く、短時間で済むクイズ形式なので、気軽に参加してもらうことができました。プレゼントにも皆さんとても喜んでくれ、良い来館記念になったようでした。
実施しての所感	クイズを解くために、館内の展示物でじっくり勉強してからクイズラリーに挑む方もいらっしゃり、当施設の展示物に対する満足度、サンゴ礁保全に対する理解度も上がったのではないかと感じます。
メディアへの掲載	沖縄観光コンベンションビューロー おきなわ物語 2017年3月3日 http://www.okinawastory.jp/mahaeblog/?p=9498

17. サンゴ苗床作り体験

実施主体名	NPO 法人コーラル沖縄
開催日時	3月 5日 9時 ~ 3月 5日 12時
開催場所	宜野湾マリン支援センター
実施内容	座学でサンゴの役割や温暖化の影響を受けた現状を理解してもらい、サンゴクイズで理解度を確認し質問コーナーで疑問を解決後、サンゴ飼育水槽へ移動しサンゴの苗床作り体験を行った。
実施状況	参加者は県内在住の親子、ご夫婦で参加者に加え、仙台からこのイベントへ参加するためだけに沖縄を訪れた方もいた。 参加人数 15名 質問コーナーでは参加者の殆ど全員から質問があり、サンゴ礁保全に対する興味や意識の高さが伝わってきた。
実施しての所感	せっかくなのでもう少し多くの参加者に集まってもらいたかった。 天候にもよるが、来年はビーチコーミングとサンゴの苗つくりを組み合わせたいと思っている。

【当日の様子】



18. サンゴ礁のフィールド観察会

実施主体名	一般社団法人キュリオス沖縄、沖縄科学技術大学院大学
開催日時	3月12日 11時30分 ~ 14時30分
開催場所	恩納村ふれあい体験センター
実施内容	恩納村ふれあい体験学習センターの研修室にて、事前学習として沖縄科学技術大学院大学（OIST）で行われている海に関わる研究を紹介していただいた。野外観察はセンターに隣接する干潟・岩礁帯を親子連れと散策し、環境の違いと生息する生き物の違いを観察した。事前学習と野外観察を通して、沖縄の海が研究者にとって魅力的な場所であることを伝えた。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：22名 ・参加者層：親子、学校教員、観光事業者 ・参加者の様子： <p>事前研修では興味を持ってOISTの活動紹介を聞いていた。野外観察では子どもたちが楽しく積極的に生き物を探索し、実際に触れながら観察をしていた。生き物を触ることに苦手意識のある子どももいたが、親やガイドの補佐もあり、手に乗せるなどの挑戦をしていた。中学校教員や観光事業者が情報収集のために参加していた。</p>
実施しての所感	野外で一般向けに研究の話をする機会は少ないが、実物を見ながらの解説は受け入れやすく、反応も良いように思われた。直前にキャンセルが相次ぎ、満員での開催とならなかったのは残念だった。

【当日の様子】



19. ワークショップ「カーミージーの夢づくり」

実施主体名	うらそえ里浜ネットワーク
開催日時	2月26日 10時 ～ 2月26日 17時
開催場所	沖縄県立博物館・美術館 県民アトリエ
実施内容	<p>県立博物館・美術館の県民ギャラリーにて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーミージーの海を伝える展示：地元年配者の聞き取り調査からの言葉、海の生物写真、港川自治会の里浜づくり活動、港川小児童による壁新聞と環境保全ポスター、沖縄国際大学山川研究室の研究ポスター ・貝遊びコーナー（貝のコマ回し、貝殻合わせ） ・「カーミージーの夢づくり」ワークショップ
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：展示観覧 20名、ワークショップ参加 50名、計 70名 ・参加者層：シニア（港川自治会老人会）、浦添市内外の親子など ・参加者の様子：展示時間には、浦添市内の親子、市内外の大学生や大人などが訪れて、スタッフの解説を聞きながら展示を見たり、意見を書いていました。親子で貝遊びに興ずる様子も見られました。 <p>午後のワークショップには港川の老人会が団体参加し、市内外からの親子などと合わせて、カーミージーの海に対する意見を付箋紙に書いていきました。出された意見は、「1：カーミージーの海（沖縄の海）での思い出」55枚、「2：カーミージーの海（沖縄の海）の好きなところ」58枚、「3：これからカーミージーの海でやりたいこと」59枚、「4：カーミージーの海をみんなで大事に使うために、作っておいたらよいと思うルール」57枚でした。意見は壁に貼り出しながら紹介し、全体での共有を図りました。子どもたちが大人と一緒に意見を出し合ったことと、普段あまり発言しない老人会のみなさんが、個人の意見をスムーズに出せる機会となっていたのが印象的でした。これらの意見は、今後の里浜活動において、海を保全しながら利用するルール作りの基礎資料とする予定です。</p>
実施しての所感	海に対する市民の意見を吸い上げる機会として、またお互いの意見を知り合う機会として、意義のある試みだったと思います。
メディアへの掲載	FM21：2月24日「Qのひげ」番組内で宣伝。 当日、琉球新報の取材あり。

【当日の様子】

展示



展示



貝遊び



ワークショップ



ワークショップ



ワークショップ

